

長野 大谷不動 アイスクライミング

小暮

【日時】 2011年1月22日(土)～24日(月)

【メンバー】 L小暮、笹川

今年は調子が良いので、バーチカルアイスを楽しもうと、月曜日を休みにして3日間の日程で大谷不動へ向かいました。以前は、スキーでのアプローチでしたが、最近はワカンでも充分らしい。峰の原スキー場の駐車場で車中泊するが、かなりの冷え込みで八ヶ岳よりも寒いのではないかと思うくらいだった。周囲のスキーヤーを尻目に準備して、峠までワカンで圧雪されたコースを歩く。峠からは、以前は左に延びる林道を歩いたのだが、今回は先行者のトレースに従って右側の林間コースの左脇につけられた踏み跡を歩く。地図で見てもわかるが、明らかにこちらの方が近道だ。最近はこちらのコースが主流らしい。重荷にあえいで登っていくと、日帰りの5人パーティが後ろからやって来たので先を譲る。大谷不動には思ったよりも早く、1時間40分ほどで着いた。既にエスペースが1張り設営しており、5人パーティは休憩しながら準備をしていた。5人パーティは、不動裏の氷瀑へ行くとのことだったので、我々は予定を変更して本流へと向かう。(記:小暮)

【本流】

F1は釜が出ているので、巻き道に従ってF2へ。先行パーティが登っているので順番待ち。やっぱりすごいスケールだ。左の灌木で、ピッチを切って2ピッチ。F2は氷は硬いが、傾斜は85度程度なのと、先行パーティのアックスの穴があるので使える。F3は落ち口が雪で、その下が水流。先行パーティの方が苦労して雪を落としてくれました。IV級程度ですが久々のリードで3年前より登れなくなっていました。本日はここまで。

大谷不動のベースキャンプはテントが6張?あり、テント村の様相。大賑わい。登るルートが幾つかあるので良いのですが、入山者が多いようです。おかげで、アプローチも楽ちんですが。(記:笹川)



本流 F2 中央のピレイヤーが小さく見える



左岩壁右ルート F1 の登攀

【左岩壁右ルート】

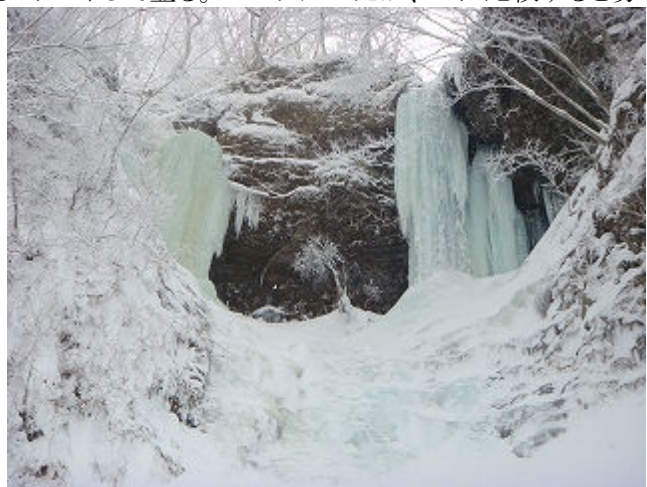
2日目。この山行の目標の左岩壁右ルートへ向かう。グレードはVIとなっているが、最近調子が良いので、なんとかなるかな。他のパーティが来る前にと、朝一番に行ったつもりだったが、取り付きには既に男女2人の先行パーティが居て、ワカンを外したり、ハーネスをつけたりと準備している。

順番待ちと思っていると、準備できているようなら、時間掛かるのでお先にどうぞのお言葉を頂く。でもこちらあまり早くないですが。と返すと、彼らは、やっぱり本流に行きますとのことで、ルートを譲ってくれました。有難いが、なんだか申し訳ない。

登り始めは、盛り上がった氷の上から右側から取り付く。ところどころ昨日のピックの穴があって使える。垂直ではあるが、手足もあって割り

りと登りやすいと思っていると、中段の黄色いツララが下がっているあたりからハング気味で氷の割れるツララ氷となる。この辺りで、正面にトラバースして最後は左側の凹角から上へ抜ける予定なのだが、バランスを取るのが難しい。ここで無念のアクステンション×1。少し休んで、正面に移り、最後は左側から抜けた。小雪の舞う天気で、登っている途中にチリ雪崩が来て首元に雪が入って冷たい。

F1を抜け、急な雪壁を20m程度登ったところが、F2 35mだ。F1で大分腕力を使ってしまったので不安だったが、良く見るとF1よりも小さく傾斜も90°あるか無いかわ位だ。良かった。右側の盛り上がった氷の上からスタートして登る。バーチカルだが、F1に比較すると易しい。登りきったところで、懸垂して元に戻る。F2を降りると、丁度、後続の2人パーティがF1を登り終えて、F1の終了点から懸垂するところだった。彼らは、交代してもう一度F1を登っていた。薄着になってリードを交代して登ったりと、まるでフリークライミングのゲレンデみたいな感覚なのだろうか。(記:小暮)



不動裏の氷瀑 F2 は左右 2 条掛かる

【不動裏の氷瀑】

午後は、不動裏の氷瀑へ。ここは、前回来たときはF1が大量の雪で覆われていてラッセルがひどくて断念したところだ。昨日登ったパーティが雪払いしてくれたにも関わらず、F1はやはり雪混じり。フリーで登る。Ⅲ級程度。

F2は下段をフリーで上がって、その上で足場を作るがあまり安定していない。F2は易しい左の滝を登る。水が滴っていて軟らかい氷。おかげでランニングのスクリュウやら、ザイルやらが凍り付いてしまった。F2落ち口の上もずっとナメが続いていて、上まで登ったらビレイ点からザイルがぎりぎり。ビレイヤーが移動してなんとか。

懸垂は、上まで登ったせいか、2回に分けて下降。すっかり遅くなってしまいBCに戻ると、昨日のテント村はすっかり無くなり、皆さん帰られた様子。ちょっと寂しい。(記: 笹川)

【本流右壁の氷瀑】

3日目は、不動前の氷瀑へ行くつもりだったが、他のパーティから聞いた情報によれば、水が滴っていてシャワーになっているらしい。何処に行くか悩んだが、以前来たときにも登った右壁の氷瀑へ向かうことにする。



本流右壁の氷瀑

ここはグリーンアイスと呼ばれる泥の溶けた黄緑かかった氷だが、2段のカーテン状の氷で見映えが良い。今回は、真ん中が一番氷が厚いようなので、中央のやや右から登る。右側のツララが凹角の足場に使えるので、垂直だが意外と登りやすい。取り付く前から2ピッチで登るか悩んでおり、2段目の傾斜が緩いところでピッチを切るか迷ったが、

あまり足場がよくないと落氷がきそうなので1ピッチで登ることにするが、最後の落ち口でザイルがぎりぎりになる。残置スリングのある大きな木まで届かず、ビレイヤーに取り付きまで移動してもらい、なんとかその下の灌木までトラバースして50m一杯だった。これは失敗で、やはり足場は悪くても中段の左側あたりでピッチを切るのが正解だろう。他のパーティの記録を後で読んでみると60mロープを使っていたので、そのほうがもっと便利だ。なんだかんだで時間がかかってしまったが、本日も満足したのでこれで終了。

大谷不動のベースキャンプからスキー場までの帰路は、昨日20人以上の方が帰った立派なトレースが出来ているので歩きやすい。つぼ足で休憩無しで1時間20分で戻ることが出来た。このアプローチの近さなら日帰りでも充分楽しめるし、八ヶ岳の行者小屋あたりよ



りも近いと思う。日帰り可能なエリアで、これだけのスケールの氷瀑群が楽しめるとあっては、人気エリアになるのも当然である。左岩壁左ルート、中央ルートなどまだ登っていない難しい課題もあることだし、また登ってみたい。(記:小暮)

【行程】

1/22 峰の原スキー場(8:15)～林道(9:00)～大谷不動 BC(9:55)、BC～本流 F2、F3

1/23 BC～左岩壁右ルート～不動前の氷瀑～BC

1/24 BC～本流右壁の氷瀑～BC(13:30)～峰の原スキー場(15:50)

【地図】 四阿山

